

二宮文乃(にのみやふみの)先生のプロフィール

東京警察病院にて皮膚科、形成外科研修後に専門医・認定医として開業、漢方と出会い日本東洋医学会会員となる。

温知会会員、東静漢方研究会会員。現在、アオキクリニック(熱海市)院長。

専門科目・領域は、皮膚科、アトピー性皮膚炎、アレルギー疾患一般。

◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

昭和40年頃、長く治らない皮膚疾患に漢方を使って著効だったのでびっくりしたことに始まり、実際に勉強を始めたのは昭和50年からです。



◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

皮膚科が専門なので皮膚疾患全般に漢方を使って診療しています。アレルギーが主なので鼻炎、喘息等も診るチャンスが多く検査所見を含めて、アトピー性皮膚炎に取り組み効果をあげています。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

漢方薬が80%。西洋薬は補助的に使うので20%位です。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

現代医学でも個の治療を重視するようになりました。漢方はまさに個人へのオーダーメイドの診療です。

現代医学と共に誰でもが漢方治療を受けられるようになると思います。



◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

20年来八味丸を服用しています。皮膚科は症状をよく見なければならぬので白内障になるのを避けたかったのです。高齢になっても元気ですし、白内障も発生していません。かぜ気味の時は、おかしと感じたら直ちに服用し、10分後には正常になっています。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

患者さんに医療を行うということは基礎に現代医学の学問を身につけ、その上での漢方治療こそが本当の治療である、と確信します。

「薬草論品」に「衆生の心欲を觀じて之を將護す」とあり、患者さんの欲していることを感じ取るよう学んでほしいです。



◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方医学の底辺は自然と共生する人間全体を癒すという観方をもって医療を行います。現代医学とは車の両輪を成すもので、どちらか一方に偏すると治るべき病氣も治りません。両方をよく考えて相談してほしいと思います。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

「大道に門無し」
目指す高嶺は、どの道を通ってもよい。自分の好きな路を選んで精進することである。

◆その他何かご意見などありましたら、お願いいたします

構造改革により医療が変わるようです。特定の医療機関と保険者とが契約して、そこだけで保険医療を行うような状況が伝えられます。

しかし、漢方医療は広く多くの方にその恩恵を受けていただきたいので、このような制約を受けることは反対です。



注意:先生へのインタビューは、当会が2001年10月に行った内容です。